

「七五三」について

■呼称の由来

中国の古い学説である陰陽説(おんみょうせつ)の「三・五・七などの奇数は目出度い数字」とされるということからきており、11月15日に神社に詣でてお祓いを受けるが、15日は三と五と七の合計が15であることから、また11月に行なうのは定めた時が旧暦の15日の内で一番良い月だったことに由来する。

■贈答習慣

元々は宮中や公家・武家の行事で行われていた儀式が一般化したもので、数え年の三歳時(男児・女児とも)の儀式には「髪置(かみおき)きの祝い」、男児の五歳時の儀式には「袴着(はかまぎ)の祝い」、女児の七歳時の儀式には「帯解(おびとき)の祝い」、九歳時(男児・女児とも)の儀式には「帯直しの祝い」が行われていた名残りで、今では九歳時の儀式は行なわれていません。現在では満年齢にて行われ、11月15日に出生後の無事を感謝し、今後の成長を祈願するために土地の氏神(産土神)様に詣でて祝詞(のりと)やお祓いを受けます。

■お祝いを贈る時期

11月初めより当日までに贈ります。

■お祝い返しの時期

内輪の祝宴に招く人は当日の会食で相当、招かない人へは一週間以内に「内祝」を贈ります。



三歳
(満年齢2歳になる年)
髪置きの儀
(かみおき)

江戸時代は、3歳までは髪を剃る習慣があったため、それを終了する儀。



五歳
(満年齢4歳になる年)
袴儀
(はかまぎ)

男子が袴を着用し始める儀。



七歳
(満年齢6歳になる年)
帯解きの儀
(おびとき)

女子が幅の広い大人と同じ帯を結び始める儀。

■ひとくちMEMO

男児は3歳と5歳、女児は3歳と7歳だが地方によって異なる。本来は数え年だが現在は満年齢で行なうのが一般的。

■ご贈答のマナー

贈答様式	贈り元	献辞(表書き)	慶弔用品
祝い品を贈る	身内・身内以外	七五三御祝 御祝	【のし紙】花結び祝
祝い金を贈る	身内・身内以外	御髪置御祝(3歳) 御袴着御祝(男児5歳) 御帯解御祝(女児7歳)	【のし袋】 花結び祝 【金封】 赤白花結び 赤白あわび結び
神社への謝礼	子供の親	初穂料 玉串料	
祝い返し	子供の親	内祝 七五三内祝	【のし紙】花結び祝



●地区のしきたり、宗教の違いにより、異なる場合がありますのでご注意ください。